

## 食品学科 シラバス目次

4年後期

配当年次	ページ数	科目名	ナンバリング
1年～4年	66	スポーツ・リクリエーション	CH103
3年～4年	402	卒業研究	FM531
3年～4年	404	卒業制作	FM532
3年～4年	412	ゼミナール	FM521

# スポーツ・リクリエーション

(1単位)

(管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1-4年・前～後期  
 担当者氏名 膳法 浩史

## ◆授業概要

生涯にわたって楽しむことができるスポーツやリクリエーションを身につけると生活が豊かになる。本講座は、下記の内容を行う。

- ①ウォーキングラリーの体験と提案
- ②チームビルディングイベントの体験と提案

実習は、教室、体育館およびイベント会場で実施する。

## ◆到達目標

1. リクリエーション活動に積極的に取り組む。
2. スポーツ・リクリエーションイベントの提案ができる。
3. スポーツ・リクリエーションイベントの運営ができる。

## ◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	ガイダンス	日時は履修登録者に対してメールで連絡を行う	予習 ウォーキングラリーについて調べる(60分)
			復習 会場までの道順を調べる(30分)
2	ウォーキングラリー①	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 会場周辺の情報を調べる(30分)
			復習 わからなかった用語を調べる(60分)
3	ウォーキングラリー②	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 ルートを確認する(30分)
			復習 わからなかった用語を調べる(30分)
4	ウォーキングラリー③	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 参加者のコメントを確認する(30分)
			復習 わからなかった用語を調べる(60分)
5	ウォーキングラリー④	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 ルートを復習する(30分)
			復習 わからなかった用語を調べる(30分)
6	ウォーキングラリー⑤	ウォーキングラリーイベントを分類し、議論する	予習 ウォーキングラリーの種類を調べる(30分)
			復習 議論した内容をまとめる(60分)
7	ウォーキングラリー⑥	東京聖栄大学を会場としたウォーキングラリーイベントを提案する	予習 ウォーキングラリーイベントを考える(60分)
			復習 提案した内容をまとめる(60分)
8	チームビルディング①	チームビルディングの基礎	予習 チームビルディングを調べる(60分)
			復習 用語をまとめる(30分)
9	チームビルディング②	チームビルディングの種類	予習 チームビルディングの種類を調べる(60分)
			復習 用語をまとめる(30分)
10	チームビルディング③	チームビルディングイベントの運営	予習 イベント運営の方法を調べる(60分)
			復習 イベント運営の心得をまとめる(30分)
11	チームビルディング④	チームビルディングの提案、議論	予習 新しいチームビルディングを考える(60分)
			復習 提案内容をまとめる(30分)
12	チームビルディング⑤	チームビルディングの練習を行う	予習 チームビルディングの方法を確認する(60分)
			復習 流れを再確認する(30分)
13	チームビルディング⑥	チームビルディングの練習を行う	予習 担当と流れを確認する(30分)
			復習 担当と流れを再確認する(60分)

14	レクリエーションイベント運営①	3班に分かれてイベント運営を行う	予習 担当と流れを再確認する (30分)
			復習 各班の発表内容をまとめる (30分)
15	レクリエーションイベント運営②	3班に分かれてイベント運営を行う	予習 各班のイベントを分類する (30分)
			復習 各班の発表内容をまとめる (30分)

※過去のウォーキングラリー： 2022年度 神田万世橋、2021年度 学内、2020年度 舞浜イクスピアリ

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所

◆参考書

書名	著者	発行所

◆関連科目  
体育実技

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験		小テスト	
レポート	20	実技 (発表・コミュニケーション)	80
学習に取り組む姿勢・意欲 (補足)			

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

レポートや発表に対して対面、メール、またはMoodleによって、フィードバックを行う。

◆受講上の注意事項及び助言

本実習は、集中授業であるため可能な限り欠席しないよう心掛けること。万が一、欠席する場合は個別に対応を行う。

◆オフィスアワー

受付時間： 毎回の講義終了後

受付場所： 6号館2階体育学研究室

上記で対応できない場合： 質問用の電子メール (zenpou-h@tsc-05.ac.jp) で対応する。

## 卒業研究 (4単位) (食品学科)

開講時期 3年・前期～4年・後期

担当者氏名 荒木裕子 岡本直也 貝沼章子 片山佳子 北村義明 谷本守正 福田 亨 福留奈美  
藤島廣二 植芝 牧 熊谷美智世 吉田光一 篠原優子 山本直子

### ◆卒業研究の目的

卒業研究はフードサイエンスコースの必修科目で、大学4年間の集大成となる。3年次までの講義・実験実習を通して、食品に関して基礎から最先端までの幅広い知識と技術を学ぶ。それらを基盤として将来各分野に応用していくためには、学生個人が自主的に研究に取組む経験が不可欠であり、地方・地域自治体の活性化に貢献できる研究等を積極的に取り入れる。

各指導教員の下で、個別の研究テーマについてその背景と目的を理解し、学生自らが研究を計画・遂行し、研究方法の確立、研究結果のまとめ・解析・考察を通して、論理的な論文の作成、問題点の解決法等を修得していく。さらに、論文の書き方を学び、最終的に研究成果を卒業論文としてまとめる。研究成果の口頭またはポスターによる発表が義務付けられる。

### ◆卒業研究の履修要領

#### 1. 研究室への配属

指導教員による「卒業研究説明会」が行われ、所定の期限までに「研究室配属希望届」を提出する。研究室配属は、その希望を調整の上、食品学科会議に諮られ、承認を受け3年前期開始時に決定される。

#### 2. 卒業研究発表会

卒業年次の後期授業の最終週に、食品学科全体の卒業研究発表会を行う。

#### 3. 卒業論文の提出

卒業研究発表会後の所定の期日までに卒業論文を提出する。

#### 4. 卒業研究の評価

卒業研究は、主査による論文審査と口頭試問（卒業研究・制作発表会）をもって評価する。主査は指導教員とし、原則として食品学科の専任教員とする。口頭試問は、卒業年次の1月中旬～2月上旬に行う。

#### 5. 卒業論文の内容、書式等

卒業論文の内容、書式等については、「卒業論文作成の手引き」により指示する。

## 卒業制作 (4単位) (食品学科)

開講時期 3年・前期～4年・後期

担当者氏名 荒木裕子 岡本直也 貝沼章子 片山佳子 北村義明 谷本守正 福田 亨 福留奈美  
藤島廣二 植芝 牧 熊谷美智世 吉田光一 篠原優子 山本直子

### ◆卒業制作の目的

卒業制作は、大学4年間の集大成となるものである。3年次までの講義・実験実習を通して、食品に関して基礎から最先端までの幅広い知識と技術を学ぶ。それらを基盤として将来各分野に応用するために、地方・地域自治体の活性化に貢献できる商品開発等を手掛けることにより、学生個人が自主的に取組む姿勢を修得する。

指導教員の下で、個別のテーマについてその背景と目的を理解し、学生自らが計画・遂行し、方法の確立、結果のまとめ・解析・考察を通して、論理的な論文の作成や作品の制作、問題点の解決法等を修得していく。さらに、論文の書き方を学び、最終的に作品を制作することで成果をまとめる。

なお、研究をテーマとして選択することも可能である。その際には「卒業研究」の履修要領が適用され、「卒業論文の作成」および「口頭またはポスターによる発表」が義務付けられる。

### ◆卒業制作の履修要領

#### 1. 研究室への配属

各研究室の教員による「卒業研究・制作説明会」が行われ、所定の期限までに「研究室配属希望届」を提出する。研究室配属は、その希望を調整の上、食品学科会議に諮られ、承認を受け3年前期開始時に決定される。

#### 2. 卒業研究・制作発表会

卒業年次の後期授業の最終週に食品学科全体の卒業研究・制作発表会を行い、卒業制作作品を発表する。

#### 3. 卒業制作作品の提出

卒業研究・制作発表会後の所定の期日までに卒業制作作品を提出する。

#### 4. 評価

卒業制作は、主査による審査と口頭試問（卒業研究・制作発表会）をもって評価する。主査は指導教員とし、原則として食品学科の専任教員とする。口頭試問は、卒業年次の1月中旬～2月上旬に行う。

## ゼミナール (2単位) (食品学科)

開講時期 3年・前期 ～ 4年・後期

担当者氏名 荒木裕子 岡本直也 貝沼章子 片山佳子 北村義明 谷本守正 福田 亨 福留奈美  
藤島廣二 植芝 牧 熊谷美智世 吉田光一 篠原優子 山本直子

### ◆ゼミナールの目的

ゼミナールはフードサイエンスコース・フードビジネスコースの両コースの必修科目で、大学4年間の食品に関する学びを総合的に深化させるものである。3年次までの講義・実験実習を基盤として、食品分野の文化的背景、社会的背景、技術的背景を自ら学び、それらの現在・将来の課題について解決を目指す素養を育む。各所属研究室において指導教員の指導の下で、卒業研究・卒業制作履修者は、個別の卒業研究・卒業制作のテーマに関連する課題について、これらを履修しない学生は、各自興味がある今日的課題を取り上げ、文献や資料の収集法を習得し、これらを熟読して定期的にまとめて発表を行うことにより、情報収集力やプレゼンテーション能力を身につけるとともに、食品分野の諸問題についての考察を深める。

### ◆ゼミナールの履修要領

1. 研究室の配属については、指導教員による「卒業研究説明会」後に、所定の期限までに「研究室配属希望届」を提出する。その希望を調整の上、食品学科会議で承認を受けた後、3年前期開始時に所属研究室が決定される。
2. ゼミナールは演習2単位（2時間、30回）に相当する内容が、3年次及び4年次の2年間で実施されるが、各年次の配分及び内容については、「卒業研究説明会」で各教員が提示する。
3. ゼミナールは、口頭試問（研究室ごとのプレゼンテーション等）、提出レポート、学習に取り組む姿勢・意欲により評価する。

### ◆到達目標

1. 食品分野の諸課題を認識し、その背景を理解して、解決策を自分なりに考えることができる素養を得る。
2. 食品分野の諸課題について、研究室内や社会組織メンバー間で討論することができる素養を得る。
3. 社会で話題となる食品分野の諸課題について、科学的な視点から説明することができる素養を得る。
4. 食の専門家として活躍できるプレゼンテーション能力を身につける。
5. 食品分野に限らず、現代社会の諸課題についての情報収集力、情報分析力、構想力を身につける。